

# 第59回卒業証書授与式を挙げる。

文責 学校長



～3年生卒業おめでとう。92名の旅立ちに幸あれ。～

1 式辞の完全版を掲載します。式では時間の都合上、短縮版を披露します。

### 式辞

暖冬の影響で早くも桜の開花がみられる地域もあり、地球温暖化を肌で感じる今日の佳き日に、教育振興会会長 佐伯 悟様をはじめ、卒業生の保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに第59回卒業証書授与式を挙げてまいりますことを心より感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症防止の観点から、ご来賓の皆様にはご出席をご遠慮していただく事態となりました。また、本日の式典は一部短縮した形となりますことをご理解ください。

卒業生の保護者の皆様 本日は誠におめでとうございませす。お子様がこうして無事卒業の日を迎えられましたことは感慨もひとしおかとお察申し上げます。皆さまのお子様はこの三年間の高校生活を経て、心身ともにたくましく成長されました。この間保護者の皆さまにおかれましては本校の教育方針や教育活動をご理解いただき、ご支援ご協力を賜りましたことに対し、全教職員を代表しまして、厚くお礼申し上げます。

ただいま、九二名の卒業生の皆さんに卒業証書を授与いたしました。卒業生の皆さん、卒業おめでとうございませす。皆さんの卒業を心よりお祝いいたします。

卒業生の皆さんは現厳木高校最後の学年として入学以来この三年間、学年主任の久富先生の下、「基礎学力の定着」「部活動の活性化」「あ、さっ

運動の促進」「ボランティア活動の充実、この四の柱に取り組み、落ち着いた学校生活の確立と学びの習慣化に真摯に取り組み、成果を上げてくれました。今年度も新厳木高校の一・二年生と共に様々なことに挑戦し実績を残してくれました。部活動においては、アー左リー部が全国総体や国体出場を果たしました。食物研究部が各種料理コンテストで最優秀賞に輝いたり、二年連続で全国コンテストに出場を果たしたりしました。また、「やかいもんをうま、もんにプロジェクトの成果として、道の駅厳木でのレトルトカレー」うま猪カレーの商品化及び販売に貢献してくれました。野球部はスポンサー甲子園全国大会への出場を果たしました。

それ以外にも、多くの生徒諸君が〇〇さが総文の開催に関わり、全国の高校生をおもてなしの心で迎えてくれました。また、部活動生と生徒会が協力して毎朝の厳木駅までのゴミ拾いをする活動も定着しました。

学校の授業では、作礼山の中腹にある環境芸術の森での里山保全活動や、地元小学校との連携活動である厳木川の生き物調査や、森の妖精フティ作り、地域の高齢者介護施設や福祉作業所での交流活動など先輩から引き継いだ本校独自の取り組みのバトンを後輩につないでくれました。有難うございました。

先輩から受け継いだバトンを下級生諸君がこれまでの厳木高校の良き伝統

を新厳木高校と受け継ぎ、一人ひとりを大切にする思いやりに溢れた学校づくりとさらに邁進してくれることを期待しています。

さて、世の中に目を向けると、今年の夏に開催が予定されている、東京2020オリンピックパラリンピックでの日本代表の活躍が期待されますが、ここに来て新型コロナウイルスの感染拡大の影響で各種イベントが相次いで中止となり、全国の公立小・中・高等学校、特別支援学校が明日以降長期の休校措置に入るといふ事態に至り、東京五輪の開催も危ぶまれています。四年に一度のこの大会に人生の全てをかけてきた選手たちの努力と、開催に尽力してこられた大会関係者のこれまでの苦勞を思うと、新型コロナウイルスの感染が一日も早く収束に向かい、東京オリンピックパラリンピックが無事に開催されることを願うばかりです。私たち国民一人一人が感染拡大の防止にいかにか協力するかが鍵となりそうです。不要不急の外出を避け、この危機的状况を乗り切らねばなりません。本日の卒業式もご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。

ところで、話は変わりますが、これまで君たちには、校長通信の中で毎週一冊の本を紹介してきました。今日はここで新しい一冊の本を紹介いたします。それは門田隆将著「死の淵を見た男」吉田昌郎と福島第一原発です。三月六日から上映がスタートする「フクシマフイティ」といふ映画の原作本でもあり

ます。「3. 11」、あの日、日本は、死の淵に立たされていきました。福島県浜通りを襲った大津波は、非常用電源を含めて全電源を喪失させ、福島第一原発の原子炉を暴走させました。一番恐れていた事態に、現場にいた吉田昌郎所長を始めとする東電社員や出動を要請された自衛隊隊員は使命感と郷土愛に貫かれて壮絶な闘いを展開しました。あの時、何が起き、現場にいた男たちは何を思い、どう闘ったのか。作者の地道な聞き取り取材に基づいて、原発事故の真相が明らかにされています。刻一刻と迫る炉心溶融を食い止めるため、死がそこに迫る現場に残り、命を懸けて原子炉建屋に突入した、名もなき作業員たちの壮絶な姿を描いた小説です。

あの災害から九年の月日が流れ、今私たちは平穏な生活を送ることができています。しかし、それはこの本で語られているように日本を原子炉爆発という危機的状況から救った名もなき人々の数多くの犠牲の上に成り立っていること、そして今も大量の汚染水処理、危険な燃料デブリの取り出しや廃炉に向けて高濃度の放射能の危険の中で闘っている人々がいることを決して忘れてはなりません。そのことを痛切に感じさせてくれる一冊です。卒業生諸君社会に立ち前には是非読んで、日本人として世のため人のために生きるとはどういうことかを実感してほしいと願っています。保護者の皆様、三年前にお預かり

する日となりました。教職員一同、責任をもて教育を行ってきたつもりですが、まだまだ心もとない部分もあります。今後はご家庭でお子様、世のため人のために尽くすことのできる立派な社会人として自立できますように今後も支えていただければ幸いです。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。本校の校訓である「若杉の訓おしえ」にあるように「若杉のように理想という大空に向かって、ともに手を取り合ひ、大きくますぐ育ち、常に若さと情熱を失わず、自らに驕ることなくどんな苦しみをも乗り越え、心豊かな人材になる。ためにこれからも真直ぐに伸びる人間になってくれることを期待しています。

最後になります。これから長い人生が続きます。

「焦らず・弛まず・怠らず」

「挫けず・驕らず・諦めず」

素晴らしい人生を歩んでください。卒業生の皆さんのこれから、人生に幸多からんことを切に祈念して式辞といたします。

令和二年三月一日

佐賀県立厳木高等学校

校長 北村 敬

## ○今日の一冊・・・今回の一冊は、門田隆将の『死の淵を見た男吉田昌郎と福島第一原発』です。

あの時、何が。今語られるフクシマの真実。2011年3月11日、未曾有の被害に見舞われた東日本大震災からまもなく9年が経過しようとしています。3月6日に、映画『Fukushima 50(フクシマフィフティ)』が公開されます。「3. 11」、あの日、日本は「死の淵」に立たされていきました。福島県浜通りを襲った大津波は、非常用電源を含めて全電源を喪失させ、福島第一原発の原子炉を暴走させました。一番恐れていた事態に、使命感と郷土愛に貫かれて壮絶な闘いを展開した男たちがいました。あの時、何が起き、男たちは何を思い、どう闘ったのか。原発事故の真相が今明らかになります。映画の原作は門田隆将著『死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発』です。刻一刻と迫る炉心溶融を食い止めるため、死地に残り、命を懸けて原子炉建屋に突入した、名もなき作業員たちの姿を描いた小説です。(「BOOK」データベースより)



【解説】インフラを含めて東日本の復興は着実に進んでいますが、福島では、東京電力福島第1原発事故の影響で今なお多くの人々が県外で避難生活を余儀なくされています。震災の記憶を忘れず風化させないための努力が我々にも求められています。今年も3月11日、午後2時46分に黙祷を捧げましょう。日本を最悪の事態から救い、犠牲となってしまった名もなき人々のために、一年一年を刻みながらもその時刻に黙祷を捧げることは続けていきたいものです。

【作者・門田隆将について】1958年高知県安芸市生まれ。本名・門脇 護。土佐高校、中央大学法学部政治学科卒業後、新潮社に入社。週刊新潮編集部配属され、特集班デスクとして18年間にわたってさまざまな分野で800本近い特集記事を執筆した。デスク時代から「門田隆将」のペンネームで『甲子園への遺言 — 伝説の打撃コーチ高島導宏の生涯』、『ハンカチ王子と老エース』などを出版した。『甲子園への遺言』は、NHK土曜ドラマ「フルスイング」(主演・高橋克実)としてドラマ化され、ベストセラーとなった。他に、光市母子殺害事件の9年間を描いた『なぜ君は絶望と闘えたのか — 本村洋の3300日』、『神宮の奇跡』などがある。(参考:「門田隆将オフィシャルサイト」より)

## 2 3年生の保護者の皆様へ・・・3年生への「校長室の窓から」も最後となりました。

この2年間発行してきた「校長室の窓から」の拙い記事にお付き合いいただきましたことに深く感謝申し上げます。3年生に配布するのは今回が最後となりました。今後は本校のHPに掲載するものをご笑覧くだされば幸いです。